

強制入院4年余。保護室に400日間も閉じ込められた大根田さんの退院を、ついに勝ち取りました!



目次

特集：大根田さん退院おめでとう!

退院しました/大根田さんの退院活動に関わってみて	2頁
橋本裁判-肝心要の判決公判/橋本闘争研修レポート	4頁
医療保護入院体験レポート~3つの証言集~	4頁
昨年を振り返る&今年の抱負/望年会	8頁
当事者運営だからできること	9頁
「今年の抱負」みなさんの寄せ書き	10頁
面会活動/入院中の会員からメッセージ	11頁
「ほっと」の新執行部(代表・運営委員)の紹介	12頁
サマーソニック2010に行って	15頁
人様を喜ばして差し上げる生き方を生き方の基本としよう	16頁
歌を詠(よ)んで癒(いや)されていた私	16頁
季節の夕食会【2月編】	17頁
育てられなかったあたし【3】	18頁

SSKS



ほっと

ことスペース八王子「ニコエス」

2011年3月号

135号

定価 100円

発行所 郵便振替
E-Mail 編集人
ホタル 所
FAX 電話
A X 話

八王子市八幡町一三〇二ふくしまやビル二階
「ほっとスペース八王子」(所長・井田有哉)
〇四二一六二八一三一九
〇四二一六二〇一七七八六
(現在、工事中です)
CXB01672@nifty.ne.jp
〇〇一八〇七二四六「ほっとスペース八王子」
世田谷区砦六二二六二二 障害者団体定期刊行物協会

【特集】

大根田さん退院おめでとう！



退院しました。

大根田 恭一

ようやく退院できました。大変嬉しく感じて居ります。改めて気がきではない。失ったものは多い。再度、自分のつらさをしらないものが増えて、「早く、私の油絵の一式を返して欲しい」。「これからの支援と支持基盤です。」(これで「全然」何でも、「話せる場として」働ぶ事もできます)。「が、「私のできることは、気がついたことからできます。」今年も自分も皆さんも元気で居る様にお願ひします。

大根田さん退院活動にかかわってみて

上田 理奈

(一) まずは「心を開くこと」から

大根田さんと初めて逢ったのは、二〇一〇年十一月初旬。四年間とある精神科単科病院に入院して閉じ込められた大根田さんの心を開くことは、そうそう簡単なことではないのではな

く思いました。大根田さんは実は、その前年の望年会に来ていて、それで降もたまに「ほっと」に見えるくらいで、私にとって存在感が薄かったのです。しかし、その大根田さんが病院に閉じ込められていて四年経ち、もう一日でも早く解放してあげたいという仲間の強い気持ちで私の心を発奮させ、私も大根田さんの退院促進にどこまでかかわることができるか？考え始めました。

とある日。初めて「ほっと」から大根田さんを病院へ送りました。私もそうですが、彼も他人の心を開くことが苦手で、その日はまだお話しすることさえもできませんでした。それでも、帰りに大根田さんに笑顔で一生懸命手を振りました。その後、秋レクや、高尾山登山などで、大根田さんと一緒に行動することが多くなりました。そのうち、あれだけかたくなだった大根田さんが、やっと握手をするようになり、やさしい笑顔をみせるようになりました。これで、私も大根田さんのために、まずは退院すること、そして退院後は安心して快適な暮らしへの貢献しようと考えたのです。私はもともと人とのコミュニケーションが苦手でしたが、今回、初対面で長期入院していた大根田さんが私自身からのアクションにより心を開いてくれたことによって、自分に自信がついて大変うれしかったです。



(2) 住まい探し、市役所交渉

十一月には既に退院の見通しだったのが、話が変わって十二月退院の見通しとなった。そのために、十二月に入り、大根田さんの住まいさがしに同行しました。そうしたら、最初の不動産屋さんが好感触。精神病者初め各障がい者の住まいに理解があり、気前の良い女性社長が相談に応じてくれました。で、何と条件のあう物件が即入居で見つかりました。その後、すぐに大根田さんと同行で物件の場所を見学しましたが、私たちは良い物件が見つかって退院できそうと喜んだ反面、大根田さんは不安を隠せない様子でした。まずは、物件を内覧しないとわからない

いし、退院後の生活を考えるとどうしよう…と書いた感じのようでした。それでも、翌日…実際に力ギを貸してもらって内覧してみても、大根田さんは気に入ったので、これに決定となりました。いざ、市役所へ。

もちろん生活保護による市役所交渉。生活保護で住宅契約金相当額、支度金額の交渉にみんまで駆けつけました。住宅の方は問題なかったとしても…今は冬。暖房用具の保障について、担当がかたくな態度で交渉してもうまくいきません。エアコンやファンヒーターなど、健康を保つ生活のために、安全な暖房器具を保障する制度は必要だ、と私は思います。行政は制限が厳しいようです。そして、早急な支給も交渉した結果、希望どおりの日時に保護費が支給されまして、さっそく契約を結んだそうです。

(3) 買い物

大根田さんの住むところは、安くていいお店が多く、生活に便利なところです。電化製品などは、大根田さんの家の近くのリサイクルショップで揃えました。その他、いろんなものが揃い、いよいよ住まいが出来上がってきました。

コタツとコタツ布団が大根田さんの家に届きました。セッティングした後、大根田さんがはんでんを着て、コたつにあたってミカンを食べてみました。のんびりリラックス、そして風流に映った大根田さんです。

あと、彼が洗濯をしたいと頼まれて…初めて洗濯機の取り付けをした私でした。動作確認をして、水が出なかったり、排水時水漏れがないか慎重に確認したりしまして、洗濯ができる状態まで持っていきました。後日、洗濯竿が届き、彼は自分で洗濯を始

めたたのことを聞いてホッとした私でした。退院後、たびたび引越し関係のホームヘルプをしていましたが、終わったあと大根田さんと毎日笑って話すようになって、私も楽しい思いをしました。退院後(しかも四年間の長期入院)しばらくは、病院と違った新生活に慣れるために、周囲のヘルプが必要と感じました。

(4) 退院祝い

二〇一〇年十二月二十日。首を長くして、待ちに待った大根田さん退院の日です。これで、小さなコンクリートの「病院」と書いた箱から解放できました!今は、大根田さんらしい、日本的な貸家に彼は住んでいます。お茶の間は日当たりが良く、窓を開けたら縁側があります。コタツがお茶の間に置いてあって、退院の晩は「牛しゃぶパーティ」。私たち仲間と一緒に鍋を囲みました。暖かい鍋でみんな肉も野菜も平らげて、満足・満足!みんな大勢で食べる鍋はおいしいですね…。

(5) 年末

慣れない新生活に対応するため、夜は男性の方が交代で大根田さんの付き添いをしていました。大根田さんは本当におしゃべりが大好き。深夜まで語ってしまつそうですよ。先日、新たに大根田さんのところに訪れた仲間が、コタツを囲んでのりで話に花が咲き…。少しずつ着実に、大根田さんの仲間の輪が広がっていき、生活の基盤も整っていています。スローステップで自立の階段を上がっている大根田さん。これからも見守っていききたいところです。

橋本裁判―肝心要の判決公判

橋本闘争研修しポト

間宮 久子

今回の橋本闘争は、第二回目の控訴審と思っていました。ところが原告側の(橋本さんの方)内田教授の証人尋問(じんもん)が却下され、裁判長は「地裁で充分審議を尽くしているので、本日をもって結審とします。判決は三月二日とします」と言いその場をたちさりました。傍聴席からは「恥を知れ!!」と弾劾の声飛びました。

※橋本容子さん(中央) 大田原弁護士(左)を囲んで



私たちは今回5人で行きました。第一回の控訴審より傍聴人の人数が少なく、判決公判の時はずっともっと力を入れなければならぬと固く心に決めました。私たちは今回、医療保護入院体験のレポートを正式にお願いされ、頑張つて3例提出しました。これは証拠と私は私たちのやったことが、橋本さんの裁判に役に立った事は本当に嬉しかったです。

裁判後は近くの喫茶店「レド」で、大田原弁護士と橋本さんを囲んでの裁判の解説と討論が行われこの先どのように、裁判が進むのか緊張した雰囲気の中で進みました。

大田原弁護士は「高裁の裁判長は橋本さん側に勝利させれば鳥取医療センターからおしかりを受けるし、橋本さんの敗訴になれば、精神保健福祉法33条は憲法13条自由権と18条奴隷的取り扱いの禁止に違反している。という事を控訴審から取り組んでいますから、敗訴すれば最高裁までに行くので、これもまた出世の道が断たれるし、とにかく書きにく

い事でしょう。」と解説をしてくださいました。橋本さんは「お金のためにしているわけではない。自分のような目に逢っている人が全国各地で裁判を起こして精神病患者の人権と尊厳を取り戻すことが重要です。ぜひ最高裁にまで行って、全国に広めたいです。」と決意を述べられました。

私も是非でも最高裁に持ち込んで多くの人に知らせ、広めてゆきたいと決意しています。裁判後は集会が予定されています。

ぜひ皆さん3月2日広島高裁松江支部に多くの人が行きましょう!!

医療保護入院体験しポト

3つの証言集

編集部

これが、橋本裁判の際に、裁判所に出された、私たちからの3つの証言です。

(その1)

Aさんの証言

―新鮮な空気が吸いたかった…医療保護入院から閉鎖病棟へ―

おいしい空気が吸いたい。1月終わり、外の木々が凍えている頃。外出や散歩の許可が出ていない私は、病棟の食堂の下にある、わずか10センチしかない小窓を開けて、床にうつむきになって小窓から吹いている空気を吸った。…おいしい。

今から約6年前。ここはある病院の閉鎖病棟。看護師と一緒にエレベーターに乗り、看護師がカギを持って二重のドアを開けて入る。決して自分で出入りできない。ここは閉鎖病棟。40床位の小さなものである。窓は全く開かない。どこの窓も。唯一、患者が自由に窓を開けられるのは、ナースステーションに近い、食堂の下の小窓である。

私は、当時の夫のドメスティックバイオレンスで精神的に不安定になり、興奮状態になり、夫を殴り返したり、物を壊したりする時があった。「入院したい」と夫に訴えたら、夫に私の主治医のいるクリニックに連れて行かれた。クリニックの主治医は、私たち夫妻に提携病院を案内し、主治医とその病院に行くことを約束した。

病院に着いたら、さっそく私はMRIに連れられ、夫は約束で待ち合わせた主治医に会う。それから夫と主治医のやり取りは、決して私にはわからなかった。気がついたら、夫は既に帰ってしまっていた。MRIなどの検査後、夫にさよならの挨拶もできずに閉鎖病棟に入れられた。保護室ではないが、ドアや窓が文字どおり閉鎖されている。勝手に患者が出られないようになっていた。

換気はベッドの上の空調になっている。その薄汚れた活さが、私の涙を誘った。新鮮な空気が吸いたい。普通の生活に戻りたい。夫に会いたくなくてホームシックにかかっていた。

入院後の私の権利は病院食と週2回の風呂、夫から持ってきてもらったパジャマ。パジャマはウエスラのひもを抜かれて、ゆるゆるになった。「コインラ

ンドリーはナースステーションにコインランドリーを請求し、週2回定められた洗濯日に自分で洗濯。狭い病棟の廊下でぐるぐる歩き回るしか運動が出なくて、フラストレーションがたまった。

10日目。「みんなで売店のアイスクリームを食べに行こう」と誘われた。しかし、看護師は、私をアイヌ仲間から引き離れた。で、若い病棟の主治医に呼ばれ、「あなたは『医療保護入院』です。ご主人の許可が得られるまで、外出や退院ができません」と告知された。私は主人に騙されてしまった。アイヌを食へ損ねたということよりも、内緒で「医療保護入院」にさせたクリニックの主治医と夫が許せなかった。

そして、入院中に「溶連菌感染症」に罹り、40℃以上の高熱を出したとき、主治医から「発熱で肝臓に影響する」とすべての向精神薬をカットされた。そしたら、私は服を脱いで暴れたらしい。急ぎよ数人がかりの男性看護師に取り押さえられ、ナースステーションに連れられ、当局医に平手で打たれ「保護室行きだぞ!」と叱られたが、私の必死の抵抗とある看護師の一人が「保護室は満杯です」と言ったため、保護室行きは免れた。しかし、強い薬を飲まされ、2日位眠らされた。

目が覚めても、症状が軽減する数日後まで点滴で眠らされた。

しかし、この病棟の雰囲気が悪い。入院患者の暴行が激しい話もよく聞く。点滴が外れ、退院したくても、夫の連絡がつかない。医療保護入院は自分の自由が利かない。退院どころか、散歩もできない。

精神病者の自主性を奪つものか?

結局、症状が軽減した後、夫の都合で引き取りたいとのことで、急ぎよ退院になった。医療保護入院は医師と保護者(今回の場合は夫)のご都合主義なのか?というのが、入院しての疑問である。

(KSN)

もう少しで強制入院

(Bさんの証言)

今年8月の熱い中、クーラーもない部屋で私は熱中症に倒れた。猛暑の続く8月末、私は引越をしました。幸いにも、なんとか引越は完了し、新しい住居にクーラーがついていて命拾いをしました。

しかし、猛暑の中の引越は、私には心身ともに、深い深い傷を残してしまいました。

引越して数日後の9月5日、私は、極度の過労と緊張のためか、意識障害になっていたので、どの薬をどれだけ飲めばよいか全く分からなくなっていたようです。

夫が、様子のおかしいわたしを心配してくれましたが、引越し前の県営住宅に、住居明け渡しの立ち合いに行かなくてはならず大に困っていました。場所が遠いので、1泊2日の行程となり、その間を私一人で置いておくしかなかったからです。

夫は、私の薬を調整・整理するために相談しなくて、病院に行きました。

診察がはじまり、先生が問診・質問をするので、私はオウム返しを繰り返すばかりで、どうにも要領をえず、任意入院となりました。その間の事はあまり覚えていません。夫と主治医から聞いた話で

す。

次の日に、気が付いたら私は保護室にいました。「じいちゃんだろっつー」と、考えても、初めての経験で、まったく分かりませんでした。誰もいない、誰もこない。多分保護室だろうと思います。

なぜか保護室に入れられてしまった私は、ボーとしていました。出される食事と歯磨きをこなすだけでした。1日に一回だけ男の人が入ってきます。「貴方はどなたですか?」と聞くと「院長です」と答えました。「どうですか?」と聞かれ「ここはどこですか?」と聞くと、「保護室です」と答えられ、私は心の中で「やっぱり」と思います。2泊3日の事です、このあとが問題です。

夫が帰ってきて、病院に迎えに来ました。院長が出てきて、「こんな状態で退院なんて認められない!」と、私と夫に怒鳴ってきました。「医療保護入院しか絶対に考えられない!」と、脅しまくられました。夫が、「どうしても任意の入院ではダメなのか」と聞くと、「絶対だめだ」と応えました。同席した主治医は、勇気あるドクターで、「まず保護者と本人の考えを聞きましょう」と割って出てきました。すかさず夫が、「帰ろうか?」と聞くと、「帰りたい」と私は言いました。そこで院長は、最後まで怒鳴っていますが、「まあ、あくまで任意の入院なんだから、本人が望めば退院はできなくはないのだが・・・そんなことになったら全く保障できない。」とつぶやきました。夫は意を決して、「何と言われても連れて帰る」と宣言しました。そして、私

は友人たちとファミリーレストランで、ささやかな退院祝いをしました。そこで私は「病院で苦しかった。二度と保護室にいれないで」とつぶやきました。その後、院長の予想に反して、私は数日で立ち直り、院長の診断・予測と脅しがいかにもさっぱりであつたかを知りました。さもさもなく用意された医療保護入院に、もし同意していたなら、数日で立ち直ることなどとてもできず、それどころか、こんなインテリな医者に殺傷と奪の権限を与えていいとんでもないことになっていたら違いないと思います。この院長は、書物も何冊も書いていて、各地で講演をしてまわる高名な医師ですが、その現実はまだこのとおりです。医療保護入院の制度は、この私の通院している病院では、医療とは名ばかりの、まったくのインテリです。

(JGM)

Dさんの医療保護入院の事例報告

【1】強制入院(医療保護入院)までの経過

①通所施設に来るまで

Dさんは、幼い娘が一人いるが、育てることができず、今は別れた元夫が娘を一人で育てている。そして、Dさんは、働くお母さんと二人で暮らしている。Dさんは、この2か月の間、調子が悪くて、病院にも行けなかった。私たちの通所施設にも行けず、薬も飲んでいかなかったという。

そして、1月のはじめに、頼りにしているお母さんが遠くの病院に入院してしまい心細い一人暮らしになった。近所に住む二人の男につけ狙われている

と信じているDさんにとって、ひとりっきりの生活は、とても怖く、たまらなく寂しい。お母さんの退院予定日の11月14日まで待ち切れなかった。何日か過ぎた11月10日の昼、Dさんは、たまらず私たちの施設に、「寂しくてたまらない。助けて!」と電話をしてきた。職員2人が出向き、明日にでも通所するように説得した。

しかし、その夜、深夜になって職員が電話に、「サヨナラ」と留守番電話メッセージが入った。それを知った私たちは大変に心配した。翌朝(11月11日)、10時過ぎに、Dさんから「今朝から何も食べていない、私はどうしたらいい? 助けて!」と、電話があった。職員が、「とりあえず、おかゆを作ったべて、それから通所したらどうか」と勧めたら、「そうしてみる」と、Dさんは応えた。風になり、「もうたまらない、早く助けに来て!」この電話があった。

そこで、職員が車で救援に向かったが、向かっている間中、電話で「早く助けて、もう待ちきれない」と訴え続けた。そして、職員が到着する少し前、彼女は両腕に無数の切り傷(リストカット)をつけてしまっていた。Dさんは、「リストカットの時に布団に血が付いてしまい、おりからの地震(幻覚)で怖くなり、パニックが起きて、(血が付いて)気持ち悪くなった布団を窓から投げ落してしまった。部屋の鍵も無くしてしまった。」と電話で訴えた。迎えにいった職員と会えて、Dさんはやっと少し落ち着きを取り戻し、車に乗って、施設にやってきた。

その後、職員ら、仲間数人と話しているうちに、薬は必要だから、病院が診察・投薬にに応じてくれるなら、今からでもいっしょに病院いこうということになった。

②通所施設から、病院へ

電話で、診察・投薬を求めたところ、主治医が了解してくれたので、すぐに車に乗り込み、Dさんと付き添い3人、総勢4人で病院に向かった。30分ほどの移動時間であったが、病院の近くまで来た時、「苦しい。助けて。」と激しく叫んだ。病院へ向かっているという緊張が極度に高まったためであつたらうか。

【2】病院でのいきなり

①主治医が出てくるまでの15分間

病院に着いた私たちを、数人の職員が取り囲んだ。主治医トドクターはいつまでたっても出てくる気配がない。Dさんは、「ト！ でてこい！ いつまでまたせるか！」と興奮を高めていった。取り囲む人数はどんどん増えて6人ほどになっていく。私たちが、「取り囲むのはよせ！ なぜ取り囲む！ すぐに主治医を呼んでほしい！」と要求したが、いっこうにトドクターは姿を現さない。

Dさんは、ついにしびれを切らして、ガラスのドアをけり飛ばし、ドアは大破してしまった。さらに数人の男が出てきて、ドアの破損具合を調べたり、割れたガラスの寸法を測ったりしはじめた。

②主治医Tの登場から、診察開始までの10分

やがて、トドクターが出てきたので、私たちが、「遅いじゃないか。早く診察してくれ。」と要求した。Tは、「母親とまだ連絡がとれない。電話を待っているところだ」といって、また引込んでしまった。

10分後、再度登場したトドクターは、「今、母親と連絡がとれた。今から診察をする。」と宣言した。

Tは診察以前に、最初から医療保護入院を決めており、入院中の母親の同意が取れるまで時間稼ぎをやっていたのであろう。こうして、Dさんは診察室に連れて行かれ、やがて屈強な男たちが集まってきた。看護助手が看護師であつた。

③診察室から病棟へ

7〜8分の後、診察室のドアが開き、Tが、「Dさんは医療保護入院。電話で母親の同意をとった。」と宣言。Dさんが連れだされ、「いやだ！ 帰る、助けて！」と泣き叫ぶDさんを屈強(くつきょう)な男たちが連行していく。Dさんが壊したドアを

通って中庭にでて、さらに入院病棟に入り、階段を引きずって上階に上がって行った。この間、私たちは、ドクターに橋本さんの闘いを紹介し、「この医療保護入院で、橋本さんに行われたような、男性看護師によるケアが行われるようなことがあれば、私たちは許さない。あらゆる手段で闘う」と訴えた

が、「トドクターは、「私の権限ではどうにもならない」といって、取り合わない。そこへPSW(精神保健福祉士)の女性がきたので、同様の要請をしたが、「そ

のようなこと(男性性によるケア)の無いよう、極力努力する」というばかりであった。

これが、八王子市でも、「ましなほう」と言われる病院で行われている、医療保護入院の非道な実態である。

「ビュー」閉鎖病棟からの告発

八木美詩子(よしこ) 著

上田 理奈

橋本さんご本人から、直接進められた一冊です。主人公である著者は、バリエーナを目指したが断念し、美容師として、2つの美容院を経営。ところが、議員である夫と町長、そして医師らによって拉致される形で強制入院させられる。「邪魔者は精神病院にぶち込め！」と。退院後の本人は、不当な入院によって奪われた人権について闘うのだが…。

このような、「法の盲点」をついた悪徳なものなど、非人道的な精神医療制度があることをもっと広く世間に知られて欲しいと思います。



昨年を振り返る&今年の抱負



望年会 ツチノコ

十二月三日に恒例の「ほっとスペース八王子」二〇一〇年望年会が八王子労政会館にて開催されました。食料を買い出したりのピンコの景品を揃えたり、準備に追われました。

が、なんとか無事、開催に漕ぎつけました。開会の挨拶と、ビンゴゲームの担当を任せましたが、両方とも無事役目を果たす事ができました。また、食事が例年以上においしく大満足でした。会員有志による楽器演奏などの出し物を行われ、大変盛り上がりました。他団体からの参加者も楽しんでいただけ様子でした。

来年は僕も何か出し物に挑戦したいです。

写真・上 参加者の集合写真

下 ビュッフェ・パーティ



当事者運営だから

じきねいじ

上田理奈

なぜ、この「ほっとスペース」は当事者運営なのか?これが、2年半前から私が考えていることでした。「精神病者が運営してどうするのか?どうなるのか?」と言われたこともあり。現実、私たち当事者＝精神病者は、個人それぞれの症状などで、社会生活になじめず、日常生活さえもスムーズにいかないことが多いのです。それなのに、一つの作業所をなぜ私たち当事者が運営するのか?疑問に思われる方が多いのですが、実はある意味が含まれているのです。

日常生活さえもスムーズにいかない私たち当事者は、決して一人では生きていけません。たくさん助けが必要になります。そこで、医療機関や福祉行政の出番となりますが、これだと、当事者は医療や行政の「クライアント」(お客さん)として、既に敷かれているルールに乗ってサービスを受けることになり。サービスにはルールが定められており、それに従わなくてはいけないため、しばしば私たちにとって「合わないこと」「無理なこと」が生じてくることがあるのです。たとえば、私の体験ですが、深夜に淋しくなって精神的に不安定になったとき…電話をかけても誰もでないで苦しい思いをしました。こんな深夜に救急車を呼びほっとしてはいけません。ましてや市役所のケースワーカーにもかかれられない。こういう時、仲間や家族がいれば、自分は苦しまなくて済んだはず。しかし、当事者は家族や

友人から偏見による排除を受けたりすることもあり、孤独になりがちです。だから、当事者はいつでも分は苦しまなくて済んだはず。しかし、当事者は家族や心の支えになってい存在が必要なのです。その「存在」として、一番頼りになって理解できるのは、やはり同じ、または近い境遇にある「当事者仲間」ではないでしょうか。当事者仲間は、単に人の痛みをわかる、というだけではありません。当事者それぞれが発病し、闘病生活の苦しみ、生活の困難、家族・親せきや友人・近隣などからの差別など…あらゆる困難をともに分かち合い、ともに語り合い、ともに生きる知恵を出し合って「ああしたらいいのでは?」「こうしたらいいのでは?」と討論して行くうちに、当事者同士の仲間意識が強まり、当事者自身が心強い仲間を得て、「自分だけ苦しい」ことから解放され、やがて自分に自信を持って生きることができるようになります。このことができる場所は、当事者が運営している場所でないといけません。当事者「以外」が運営する場所だと、どうしても前述のように、当事者は「上から目線」でクライアントにならざるを得ず、主体性さえ奪われます。当事者が意見を言い合うこともできなくなるのです。その点、当事者が運営する場所だと、場所を利用する人とみんな「対等な目線」になりますし、利用者が主体的に運営を支えることができ、組織が活発になります。

当事者の仲間意識が強くなると、社会に向かって「このままではいけないのでは?」と「ソーシャル・アクション」を起こすことができます。社会のなかで不適切な法律・制度、社会資源や社会サービスの改善・充足を医療福祉行政に働きかける運動をすすめるのです。当事者の声が聞こえないと、どんどん医療福祉行政の方が独走して、私たち当事者に合わない医療福祉制度ができてしまつおそれがあるのです。まずは、じっくりと当事者同士の仲間意識を強め、医療福祉制度など関心を持つことから始め、それで、私たちが生き生きと生活できる社会づくりへ導くのです。

当事者こそできることがあるのです!

当事者はしばしば体調を崩すことがあるのですが、そこはお互いの助け合いでカバーしています。当事者運営は助け合いの精神がないとできません。

当事者運営の重要性を、ここほっとスペース八王子は、その答えを出そうとして試行錯誤している毎日です。退院促進運動など、さまざま活動を通して、私も当事者運営の大切さ、お互いを助ける精神を、この「ほっとスペース」で守ろうと考えています。

面会活動

ほっとスペースの皆さまへ

ナナミ

一月十一日は、沢山のメンバーに面会に来て頂き、本当に感激しました。水仙、心が華やきますね、おいしいお菓子もありがとうございます。大事に世話します、大事に食べます(笑)。

早くほっとに通所で生きるようになって、皆様と色々な話やプログラムや活動をして、仲良くなって充実した楽しい時を過ごしたい。そのために自分を変える勇氣と、心身を治す事に専念します。励まされました。

今日は整形外科で義足の仮めいをして貰いました。ギプスをしていない骨折治療があるなんて知りませんでした。来週完成品を受け取り、しばらく車イスと併用して過ごすそうです。レントゲン経過は順調、骨もそんなにはずれてないようです。私は動きがガサツなので、まだまだ大人しくしてなければいけませんけどね。

(多分)骨がぐくつくまで退院はないでしょう。外にも出してもらえない……(出れないけど)。

家賃他の支払いや金融関係他、色々な手続きに用事、郵便物、色んな事が不安だなあ……。当日、福

祉に「入院させるから(先が見つかったから)迎えるに行く!」と言われ、パニックになった。一人暮らしの患者って皆そういう悩みを抱えるのかな(福祉や訪問看護ステーションには協力して貰ってますが)。

退院日は全く未定ですが、訪問看護ステーションと福祉課の方がその後、面会にいらして、相変わらず強く依存症プログラムのある病院に、今の病院を退院後すぐに入院を強く強く押してきます、Wの職員もその意見みたい。このまま一人暮らしの家に戻したら死んでしまう位に考えているそう(汗)

ただ依存症病棟でトラウマがある事や、プログラムを受けて退院してその後うまくいった人って、知らない為(居た病棟仲間には)、別にプログラムを受けたから良くなると限らないので。私は自分の希望する通院先(看護師さん絶否定)があるので、凄く心配してくれていい人ながらも、強引な訪問看護さんを納得させるべく、依存症病棟プログラム以外の方々がよくなって「こつこつしなければよくなる」とばかりの訪問看護さんを信用させるよう努力していきます。生活態度や考え方もね。

皆様も色々な事があるのだらうけれど、ほっとのメンバーは元気をくれる人たち、ほっとはそんな場所です。

アルコールや摂食障害等の依存症医療や自助グループ(AAや断酒会)の「プログラム」は、知らない人(普通の人?)は知らない事も多いと思うので、私の話がわかりづらかったらごめんなさい。

とにかく本当にみんなが好きです。ありがとうございます。

【編集部より】ただいま、ほっとでは、入院している仲間の面会活動に力を入れております、やはり、仲間がお見舞いに来ると、入院している方は大喜びします。それに、お見舞いに行った私たちも元気を頂きます。上記のナナミさんはじめ、自分の病状回復のために自分なりに向き合っている仲間の力強さを感じてなりません、今後も定期的に面外活動尾を続ける予定です。



新執行部役員紹介!

二〇一一年度の執行部・役員選挙について、立候補者は会員の信任を以って全員当選しました。新執行部の皆さんはごらんのとおりです。

〔1〕共同代表

上田理奈(うえだりな)

さばさばとした女らしくない?女。吹奏楽と横浜ベイスターズを愛する自由人: : : じゃなかった、とりあえずマニフェストを。

・女性を通いやすい作業所に!
そうです。今、女性を通える作業所はそうそうありません。それに女性は男性に抑圧された性です。女性が団結して、さらに安心して通える環境をつくります。女性が代表になることには、ここに意味があります。

・よく話し合い、よく笑いあう。
・差別と闘う、強いほっと!
「ほっと」を考え、ともに闘う、ともに元気を分かち合うほっとスペース」作りをめざします。まだまだ未熟な点もごさいますが、みなさんを包み込むような、暖かいリーダーとして頑張っていきたいと思います。応援のほどをよろしく願います。

黒川裕之(くろがわひろゆき)

◎上田さんが当選されたら補佐します。

◎代表になったらやりたいこと

- 1 大根田さんのリハビリ
- 2 八田野さんの自立
- 3 高橋由美子さんの支援
- 4 橋本闘争支援
- 5 ミスター・ワタック他、障がい者不審死の真相究明



新代表:(左)上田、(右)黒川

〔2〕運営委員

間宮 久子(まみやひさこ)

私は二〇一一年度の運営委員として、次のような考え方で闘ってきました。

私は、仲間を守り、仲間との絆をつくる事が大切と思ってきました。

仲間と話し合い、共に悩み共に考えていく、... .
その中で、絆が生まれ、強まっていくと思うのです。

私たち障害者は、病気・障害の苦しさ、社会から差別される苦しさのなかで、人と人との絆、仲間との絆をすたすたにされてきました。

そのなかで、夢と希望を奪われ、絶望に沈んだり、自殺する人、ワタックさんのように孤独死する人がいます。

本当に信じられる仲間がいて、仲間同士の強い絆の中で生きて行けたら、このようなことはなかったでしょう。

だからこそ、「ほっとスペースス八王子」の中では、絆をつくす出す事が、第一に重要ではないでしょうか。

絆って何でしょうか? それは、守りあい、助け合う中から生まれてくる、信頼関係ではないでしょうか?

私は、この1年、かなり調子が悪くて入院を繰り返しましたが、やむにやまされず、仲間と共に、

写真/新代表の2ショット
左・上田 右・黒川

ただかっけてきました。

1年を振り返ってみて、信じ合える仲間、仲間との絆こそ、人間として生きるために何より必要だとあらためて実感しています。

①大根田さんの退院を年内に何としても勝ち取るうと言ったことは、4月以来の私達の念願でした。八王子市生活福祉課や協和病院との交渉を粘りつよく重ね、年の暮れの12月20日に、やっとの思いで退院を実現しました。

4年間もの強制入院からやっとの解放でした。退院のとき、大根田さんが一刻も早くその場を立ち去ろうといいました。長かった、入院生活からおさらばしたかったですでしょう。

大根田さんは、どんなにかうれしかったです。私も思わずもらい泣きしてしまいました。

その後、大根田さんのリハビリと生活支援をやってきました。まだまだ、できていない部分もありますが、じょじょにやりたいと思います。

②八田野さんの独立

八田野さんは、病気に対する家族の無理解から10の年に渡り悩み、苦しんできました。今回家を飛び出して、「ほっとスペース八王子」に助けを求めて来ました。私達は彼と話し合い、彼の独立の手伝いをすすめていきました。

家を借り、世帯分離、生計分離を勝ち取りました。

家族との話し合いを持ち、彼の生活保護を取る手はずを整えました。課題はありますがとにかく、独立に向けて奮闘中です。

③橋本裁判

私が橋本裁判を知ったとき、私の心の中に、稲妻に当たったかのような衝撃が走りました。「これは支援しなければ!」と思いました。それから何日かたって、「ほっと」に提起しました。新執行部がすぐ取り組むべき課題の中心になりました。

以来、「ほっと」と橋本容子さんとの交流も深まり、精神病者の人権闘争として支援・共闘の関係が生まれてきています。

強制入院の非人間性、人権蹂躪、憲法違反の実態を暴きたす証言として、「ほっと」で集めた証言集は裁判所に提出されました。橋本さんの力になれて、ほんとによかったです。

これから取り組みたいこと。

私は①②③のようなことをもっと進めてゆきたいと思っています。長期入院者、独り立ちしたくても、できない人の力になりたいと思います。

私は、「ほっとスペース八王子」では、「ほっと」の中にある、女性差別の問題に対して、まだまだ取り組みが浅いと思います。

女性がワイワイと仲間同志で話せる場所が必要だと思いいいます。それで女性部の立ち上げたいと思いいいます。男性がいると、なかなか話せないようなことでも、同性であれば、自由に話ができてくると思いいいます。差別を受け、しかし、泣き寝入りをすすめるしかなかった事、その歴史を覆したいです。そこから女性同士の絆がまた生まれたいと思いいいます。

女性部の中で出てきた問題は、個人の問題としてはなく、女性部として、全体ミーティングとか、運営委員会に提起をしてゆきたいと思いいいます。

差別と闘う力、仲間を守る力、仲間の信頼関係と絆が、力強く発展していくと思いいいます。その力が、「ほっと」をつぶしてしまおうとする差別行政の圧力を跳ね返して、「ほっと」を守っていく力(男性も女性も団結して)を生み出していけると思いいいます。

以上が私の2011年度の運営委員になったときにやりたいことです。

よろしくお願いいいたします。



誕生会でみんなで作った手作りケーキ☆彡

筒井健太(つついけんた)

- 1、執行部、事務局、会員を問わず、一致団結して当事者運動を推進する気運を高める。
- 2、プログラムをより良いものにして、会員に心地の良い居場所を提供する。
- 3、解放運動により能動的、積極的に参加する。
- 4、会員の意思を最大限尊重して、運営を活性化させる。
- 5、賛助会との連携を密にする。「ほっと」ニュースがより充実した内容になる様努力する。
- 6、団体との交流を密にする。交流の度合いを濃くする。
- 7、全体ミーティングにおいて関連とした意見が出

堀部正(ほりべただし)

- 「1」2009年の役員選挙の際に落選した事に踏まえ、その反省を含めて運営委員への立候補を致します。
- 「2」職員、役員だからと言って会員にどんな立派な事であろうと押しつけない(調教しない)。しっかりと、会員のほとんどが納得できるような議論を積み重ねます。
- 「3」「ほっとスペース八王子」内に対立を持ち込まない。
- 「ア」問題があるからと会員を排除するのではなく、どういつい会員でも配慮するような対応を進めます。
- 「イ」みんなが「ほっと」出来る空間を提供できるように努力します。

(ウ) どのような内容の意見でも安心して述べられる話し合いの場を保障します。

「4」孤立に結びつき、依存心を生み出すので個別対応は特別な場合を除いてしません。みんなで話し合って、全体で取り組むような対応をします。

「5」以上を基礎にして、以下の課題に挑戦します。

(ア)「ほっとスペース八王子」の理念を実現する為に努力します。

(イ)「精神病者」「障害者」「社会的弱者」も含む解放を主体性と自主性を重んじながら進めます。

①退院促進、(親から、兄弟から、夫婦から、職場から、その他地域からの) 地域移行支援II居場所の確保を進めます。これが解放の出発点だからです。

②様々な会員の主体性、自主性、表現力を発展させるようにプログラムを実践させます。これが解放の基礎だからです。(③話し合いの機会を増やし、他人の意見を良く聞いたり、自分自身の発言力や、訴える力をみんなで付けていきます。これが解放の手段だからです。

④全会員が実行委員、運営委員、共同代表など新しい会員のリーダーとしての挑戦が出来る環境を整えます。これが解放運動を広げるからです。(ウ)あらゆる差別に反対します。

(エ) 戦争と戦争に結びつく動きに反対します。

(オ)「障害者自立支援法」の撤廃をあくまで打ち取ります。補助金制度を存続させる為にみんなの協力で取り組みます。

(カ)「医療観察法」、「精神保健福祉法」(強制入院

制度)などの悪法、制度と向き合い、橋本裁判など全国で孤立して取り組んでいる仲間の応援にみんなを駆けつけます。で駆けつけます。

(キ)逮捕された仲間、長期入院の仲間、孤立している仲間を救済します。

(ク)以上の取り組みを継続して保証される「ほっとスペース八王子」の今後のあり方を会員総意で話し合いながら考えて、創り上げていきます。

(ケ)以上、全会員の意思を尊重し、共同代表はじめて一丸となって「精神病者」「障害者」「社会的弱者」の解放のために挑戦していきます

田島裕美(たじまひろみ)

皆さんと共に 自主運営を引き続き行っていくたいです。



サマーソニック2010に行くと

ほっとスペースのポップ・ティラン

昨年の8月7日(土)と8月8日(日)に千葉マリノ・スタジアム、幕張メッセでサマーソニックが行われました。僕は8月7日(土)の分を見て聴きました。二〇〇四年にも見に行きましたが、二〇一〇年も同じくらい混雑していました。どの様な経路で行ったかというと、京王八王子駅から京王線で新宿へ行き、そこから都営大江戸線で月島駅まで行き、営団有楽町線で新木場駅まで行き、そこからJR京葉線で海浜幕張駅まで行きました。幕張駅からは、徒歩でした。だいたい3時間くらいみておけば大丈夫という感じです。

さて、中身ですが、広げて開放的なので、千葉マリノ・スタジアムで見て聴く事にしました。

午前十一時からFACTYというバンドを見ました。アリーナ席からの立ち見でしたが、若いバンドであり面白くなかったため、2〜3曲聴いてから駅まで戻り、ファースト・フード店で、コーヒーなどを飲んで時間を潰しました。あっ、そう言えば風が近かったため、吉野屋で牛丼の並盛り、みそ汁、生卵を食べました。

マリノ・スタジアムに戻って、今度はスタンド席から見ました。十三時三十分からはKREVAというアーティストが出て来ました。彼はバンク・バンドのやっているサマー・フェスに出ているので、知っていましたが、生で観るのは初めてでしたが、

意外に地味な感じがしました。

十四時三十分からは矢沢永吉が登場して来ました。僕は矢沢永吉のコンサートを観るのは初めてでした。また、サマー・フェスに矢沢が出るのは驚きでした。でも、さすがベテランで見聴きして、とても面白かったです。



誕生会でギター熱演の「ほっとスペースのポップ・ティラン」

十五時四十五分からは、NASというバンドが出て来て、黒人のヒップ・ホップみたいなバンドでした。会場は暑かったので、スタンド席で横になって寝ている人もいました。NASのCDは後でツタヤで借りて聴きました

十六時五十五分からはNICKELBACKというバンドが演奏しました。白人のロックンロールやハード・ロックのバンドでした。これも意外と面白かったので、後でツタヤでCDを借りて聴きました。十八時十分からはTHE OFFSPRINGというバンドが登場しました。これも白人のバンドで、ロックン・ロールみたいなのを演奏していました。アーとかウーという掛け声が多かったのですが、これも意外と面白かったので、後でツタヤでCDを借りて聴きました。

十九時四十分からは、JAY-ZというNASと同じ様なヒップ・ホップのバンドでした。ベテランという感じで、マリノステージの最後をつとめていましたが、僕はヒップ・ホップをあまり聴いた事がなかったので新鮮でした。これも後でツタヤでCDを借りて聴きました。

また機会があったら、お金をためて、サマーソニックを聴きに行きたいと思います。とても有意義な一日でした。出来れば、いっしょに見に行ってくれる女性がいれば良いと思います。

「人様を喜ばして差し上げる生き方を生き方の基本としてしよう」(全3回その1)

島村勇一

私は現在満64歳となります。この64歳の年になる迄生きて行くにはこういう生き方をしていくのが一番の生き方でこの生き方を実行して行く、必ず幸福(しあわせ)が得られます。これは私がこの年になるまでの人生経験に裏付けされたことです。

人は皆、お互いに助けていただいたり、支えていただいたり、支えて差し上げたりして生きて行くことが、お互いの人間としての真実の生き方であります。

人という漢字を見ましてもカタカナの「ノ」の字が左にその右下に斜めに「一」線が下がっていて、左の「ノ」の字を支えているように、なっていることでも、ハッキリと理解できます。人は支えあって生きていくという事です。人間は一人で生きていきません。お互いに支えあって生きていくのが人間です。

人間は一般的に1つの仕事をして収入を得てその俸給で食材を買い調理して食事を頂きます。衣服にしても俸給で買い身に付けます。他、必要なものもその俸給で買い、用を足します。食物のお米にしても農家の方が作ったものをスーパー等で買います。お味噌にしてもお味噌を製造するところで作りスーパー等で買います。お魚にしても漁師さんが獲ってきたものをスーパーか魚屋さんで買います。それを調理して食物として頂きます。

このようにしていろいろな方々の恩恵をうけて始めて、はじめてこの目的がつまり食事ができます。

こう説明しますと、自分一人では生きていけない。いろいろな人々の助けをかりて、又、大自然の恩恵を受けて、自分自身が生きていけるということに気がつくでしょう。

だから人間は支えあい助け合って生きていることがご理解できると思います。

又私達は大自然の恩恵を受けてこの地球上に生かされております。何一つ私達人間が作ったものは生きていることができません。

日々雑感&エッセイ

又私達は何ひとつつくることはできません。大自然の恩恵を受けてこの大自然に生きている野菜を又生きている魚を又は生きているお米をスーパー等で買って生きて生きているうちに調理していただく。食べるものすべてにしても、皆んな、大自然のものをいただく、こういうことで人間は生かされている存在ということが理解できます。何ひとつ人間だけが作った食材ってありません。大自然の力を借りて作ったものを食べて生きているでしょう。だから生かされていると言つことが出来ます。

人間は悪い事をするためにこの世に生まれてきているわけではありません。良いことをするためにこの世に生まれてきているといつても過言ではありませぬ。

人間は針の穴よりも小さい悪いことを思ったり考えたり、悪い言葉を使ったり決してしないことです。又悪いことを行動に移さないこと、針の穴よりどんなに小さなことでも良いことを考えたり、思ったり、良いことがけをする。又良い行動をとるということ、良いことだったら、限りなく大きなことでも良いことをすることが出来る。こうやってこのことを頭に入れ、意識して毎日の生活をしていく。このことをこの徳積み習慣化して行くことを実践して下さい。必ず幸福(しあわせ)がおとすれます。

歌を詠(よ)んで 癒(いや)されていった私

村井博

昭和五十八年、心の病で悶々(もんもん)としていた頃、短歌結社に入会して初体験で歌を詠(よ)み、毎月五首づつ短歌結社へ送っていた。そして、この結社の短歌雑誌の月刊誌に掲載され、毎月自宅へ届いていた。それと同時に毎日新聞の日曜版に短歌、俳句、川柳を各五首づつ送ったのが川柳として、毎日新聞多摩版に掲載された。あの頃は歳がまだ四十二歳の頃であった。精神の状態も悪い面も多々あった。三十八歳で現在の妻と結婚し、四十歳で男子をもうけ、入院したり、いろいろ仕事を変わりながら、現在この年満六十九歳と三ヶ月過ぎたが、今は妻はまだ働いている満六十七歳と三ヶ月となるが、私は満六十七歳と一ヶ月のとき、くも膜下出血の病気になる入院して平成二十一年四月に退院して、気一年八ヶ月となるが、リハビリ、自主下しを行い、また仕事には就いていない。わずかな国民年金とわ

すかな厚生年金わずかな国民年金基金を合計して月に十萬位と妻の年金そして妻の給料で毎月毎月妻と相談しながら、やりくりして生活している状況である。

短歌会に入り、気をまぎらわすことも多くあったと思う。ここ八王子に引越してから二十四年となる。妻の実家で妻はここに六十年ほど住んでいる。短歌会に入会していた頃どうゆう心境のときよく詠よんでいたかはよく思い出せないが、やはり短歌を詠(よ)むことにより、沈みがちな心が又元氣な心へともどったりとか、歌を続けて詠(よ)むことにより、精神状態も安定していたりとか、けっこう歌を詠(よ)むことにより元氣をもらっていたと思う。

一〇八王子の廿里(とごり)へきてから幻覚、幻聴、妄想がでてきて、家にいると沈みがちな気持ちが前いた国立より強くなっていた。年を重ねたこともあるだろうがこの廿里(とごり)の閉鎖的というか、親せき同士が固まっていたその仲に入りにくい環境又この病氣に対して理解してくれない偏見をとても強く持っている人たちが多く、受け付けてくれないといつても過言ではないような気がする。自分が住んでいる町のことをあれこれ言うのはどうかと思うが、国立では家作(かめす)の大家さんのおばあさんがとてもいい人だったので救われたことは大きかったと思う。一〇の頃(平成二十二年十二月十三日頃)はよく歌を詠(よ)んでいる。外出するとき小さな胸ポケットに入れていた手帳をいつも持っていてそれをダイエーの中の椅子に座り詠んだら

か、一寸浮かんだら書き留めたりしている。詠むと元氣が出てきて、つまらないことを思わなくなる、それが一番よいことだとも思う。いろいろ、くよくよ考えたりおもったり妄想をおこしたり幻覚幻聴がでたりするのなら、短歌でも俳句でも川柳でも一寸ペンを取り下手でもよいから自分の思ったことを歌にしてみたらどうかと思う。最初はなかなか浮かばなかったりすることも多いこともあるが、そこで一寸踏ん張って何回か努力してみる事が人生を変えることになるかもしれない。どうか頑張ってみてください。私は五七七七の字数(じかす)に入らなくてもよいですから、又二文字多くなっても良いですから、先ず最初詠(よ)んでみる事です。そしてそれをメモしたり、メモしながらつくっていくように試みて下さい。ここから歌が始まります。季節(季節のことは)を入れるのがよいですが最初は季語がなくてもよい、まず詠んでみる、そしてそれをメモすることをつづけていくようにしてみる。一日一首でも三首でもよく歌えるようだったら五首でも十首でも詠んでみる。よいですから、本当によいですから。一首できても達成感もあるし、やったあとという気持ちになるし、嬉しくなります。つまり歌を詠むといつことは嬉しき、喜びの継続であるといつてもよいのではないのでしょうか。短歌、俳句、川柳というのは、文章をかくだのであると思っではじめること簡単に書けるかもしれません。又、後日今まで詠んだ歌を読み返すというのも、これも又良い、あうあうのとき詠んだ歌だと思ひ返すしてなつかしむ、これも楽しみみのひとつです。

季節の夕食会(1)

2月3日：恵方巻【編集部】



一月三日の夕食会で、村里先生の指導のもと、恵方巻に挑戦！太巻き寿司を巻くのが始めてという人でも、丁寧に巻いて・・・無事皆さんの食卓に丸かぶり寿司が並びました。今年の恵方、南南東に向かつてがぶり！コンビニやスーパーなどで、手軽に買いやすくなった恵方巻ですが、やはり季節のものであり、手作りが一番ですね。

育てられなかったあたし

【3】

さくら桃

※この物語は、あくまでフィクションです。実際の人物などとは関係ございません。

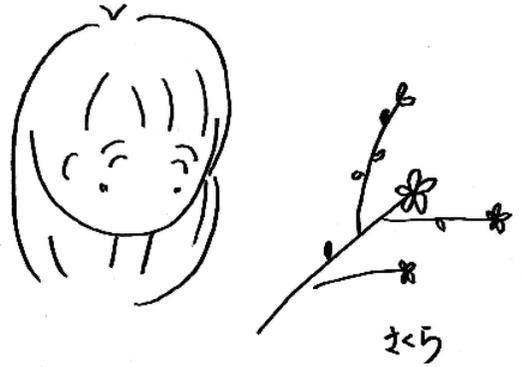
・登場人物

吉見(旧姓・佐々木) 理恵 結婚1年目。公務員。
 双極性障害・不安障害・アダルトチルドレンを持つ精神病者。子供の頃からいじめを受け、心の傷を負っているが、本来は好奇心旺盛な明るい女性。

吉見裕一・2年間勤めていた自衛隊音楽隊を辞め、システムエンジニア(プログラマー)に転職したばかり。週末は吹奏楽団に通ってトランペットを吹いている。コンピューターゲームやパソコンの自作、編曲が趣味。

・これまでのあらまし

理恵は高校時代にはいっていた吹奏楽部でいじめを受け退部したがレッスンを受ける形でトランペットを続けている。高校卒業後、公務員に就職。母親との対立で家出し、独立。まもなく交際の裕一と結婚。しかし、入籍前に流産し、精神科の主治医に「子供は産んでも育てられない」と告知され、結婚さえも反対された。しかし、慣れない家事と仕事の両立でうつ状態になり、3ヶ月病気休暇を取る。そこで、家庭に入って主婦に専念するが、夫がなかなか仕事から帰ってこない淋しさから夜間にオーバードラッグしてしまっ



ち、何を書いているかわからないうちに寝ちゃった……。

医師から話を聞いたら、疲れたので、また再び寝た。

この日の夜、あたしは実家の両親とタンナに付き添われて退院した。

もっと長く入院したかった。でも、両親に怒られた。

「変なことしないで、他の人に心配かけないように、しっかりしなさい!」その時あたしは泣いちゃった。

けれど、無視された。
 あたしはしっかりと人じゃない!!
 ドジ愚図バカドンくさい……

その週末、立川の病院で買った封筒を持って主治医にかかる。

主治医は激怒した。
 「こんなに薬飲んでも、死なないよ。体悪くさめちゃこまるから、僕はもうあなたに一切薬出さない。」

「こんなに薬飲んでも、死なないよ。体悪くさめちゃこまるから、僕はもうあなたに一切薬出さない。」

「それにあなたは処方を守らないし、指示もそんなに守ってないから、僕は診るのをやめる。」

「このあえす都立第一病院がセンターになるから、新しい病院を紹介してもらってね!」
 主治医からさじを投げられた。

気が付いたら、あたしは病院のベッドで寝ていた。目が覚めたら、あたし、おもしろしをしていた。(汚い話だけど) やたらとトイレに行きたくなるので、その都度に、点滴をぶらさげたまま、ふうつきながらナースの付き添いで用を足した。
 医師があたしの病室に入った。
 「今は朝の1時ですよ。さっきまでタンナさんとお父様が付き添っていて、それぞれ仕事にいきましたよ」と。
 「どこですよ?」とあたしが訊(き)く。
 「立川ですよ」と。
 「お友達が団地から運んでくれたんですよ!」それからタンナが仕事を明けてタクシーで駆けつけたんですよ! ……あたし、誰かよんだのかしら?..
 誰かにメール打ったけど、誰か良く分からないう

夕方遅くにダンナが車で迎えに来た。
ダンナは終始無言だった。
：自分の嫁が警察につかまるなんて、恥ずかしい！
と言いつけて。

紹介状の花ゆらクリニックは院長あてだった。
ネットで調べたら、院長は水曜日担当だった。クリニックに電話したら、「もう第一病院から連絡が来ているので、次の水曜日で大丈夫ですよ」と。
水曜日の夕方5時。ダンナがまた年休をとって、一緒に通院について行った。

花ゆらクリニック。
結構混雑していたが、あたしたちは優先的に診察が回った。院長先生は気さくな加藤茶に似ている50歳位の男性。まずはダンナとあたしがあいさつしたが、あたしが診察室から出た。

その間、あたしは問診票を書く。
20分後、問診を持ってダンナと交代で診察室に入る。気になる症状、オーバードラッグや感情のコントロールができない悩みを告白した。

それからまたダンナと交代で診察室に入る。院長先生はダンナに話を持ちかける。

「もうご本人が『入院したい』と言っているし、警察や救急病院に運ばれたというなら、うちの本院で入院はいかがですか？うちの兄が院長をしている病院なので、安心ですよ。よかったら来週までにはベッドを空けましょう。」病院のパンフレットを院長から貰い、ダンナはクリニックからの連絡を待つことにした。

入院費・・・診療後、ダンナは急いで消費者金融で何十万も借り入れた。

1週間後。

前日にダンナからベッドが空いた連絡が来て、入院の支度をした。そして、ダンナに送られて、病院に入った。

これが病院？
モスグリーンと真っ白な壁に囲まれた、中央に6階建てのタワー。脇にも立派な病棟が並んでいる。奥には体育館がある。

とにかく広い敷地・・・
そして、あたしとダンナが案内されたところは木のぬくもりのある床と壁。食堂はこじんまりしたところにテーブルが並んでいる。ナースさんにエシベーターの力ギを開けてもらって入ったところ。
「ここは『急性期病棟』、あなたはここに入院させてもらいます」

入院して10日後。
突然、ダンナが見舞いにきた。
「何の用事なの？」となんとなく聞く。
「千葉の実家が3月に完成する。学校に連絡して転勤届を出せ！」
・・・衝撃。

あたしの居ぬ間に話がどんどん進んでいく。

今後の予定

- | | |
|------|-----------|
| 3・16 | 誕生会 |
| 3・19 | とうきょう会議 |
| 3・22 | 香華販売・団地清掃 |
| 3・31 | やんわりトーク |
| 4月上旬 | 定期総会 |

編集後記

大変長らくお待たせいたしました。二〇一一年最初のニュースほっと発行の運びとなりました。今回は、初めての編集で作成に非常に時間がかかったことを、楽しみにしてください。皆さんに非常に申し訳なく思っています。ようやく編集までに辿りついたのも皆さんのおかげです。これからも、読んでいて楽しいニュース、「ほっと」とするニュースをつくりたいのでよろしくお願ひします。(カ)

●会員になろう！

病気で悩んでいる人、苦しんでいる方へ。ひとりでは解決できないときは、ほっとスペースの仲間になろう。仲間が相談にのってくれるよ。お気軽に相談を。専門スタッフが対応いたします。

